

行政・文化施設編



① 庁舎は「ひとつ」だよね(13)

- ・分かりやすい、使いやすいデザイン(5)
- ・見た目がカッコいいのも本館が大きい(1)
- ・高齢者や障害者が使いやすい行政づくり



③ 全国初のノマド行政(6)



- ・文化施設について
- ・用事がなくても集まる複合施設(1)
- ・市民活動がしやすい文化施設(1)
- ・人の心が豊かになる施設

庁舎 について大事にしたいこと

庁舎は統合

- ・施設、建物が1か所に集まっているって便利
- ・庁舎は1つだけ
- ・やっぱり1つが理想。まとまりがつく



カッコいい

- ・「おっ」となるコンセプト
- ・クールな、話題となるような工夫のされたもの
- ・すっきりしている、ゴチャゴチャしていない、統一感
- ・独自性、他市もうらやむ
- ・機能美



統合場所は...

- ・魅力ある場所に庁舎をつくり、20年で15万人都市に
- ・交通インフラを生かす
- ・キャッチフレーズは日本一の茶園の市、日照時間が長いところ
- ・市の中心のシンボル
- ・茶園が見渡せる高い所
- ・高台への新設は根拠をしっかりと(低コストを実現)



誰でも使いやすい

- ・高齢者、障がい者、子ども、赤ちゃん、妊婦さんなどにやさしい、みんなが使いやすい
- ・家で申請する
- ・方言で対応する窓口は残す



無駄をなくす

- ・全国初のノマド行政
- ・クールな事務所(庁舎)
- ・職員のムダな動き・時間をなくす机や椅子の配置



庁舎の方向性(案)

- ・庁舎は1つに統合する。
- ・統合先は、安全を重視して当面は榛原庁舎周辺とする。
- ・高台等を含めた庁舎の移転は、長期的なまちづくりの視点で検討を続ける。
- ・統合の方法は、現在ある施設を賢く使うことを原則として考える。

今後の方針：庁舎編



- ・災害時の浸水リスク → 1階部分は機能不全に
- ・榛原庁舎の機能移転がスムーズがない。
- ・移転コストが高い
- ・榛原の、老朽化

クールな市庁舎エリアを榛原にデザインしよう。

- ・集約的・効率的
- 移転コスト(時間・費用)ダウン



現: 市庁舎

移転健康福祉センターさん

学校・体育・子育て施設編

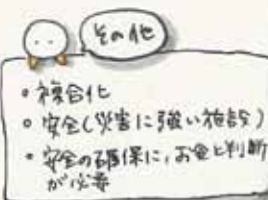
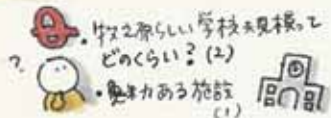
① 複合化するよ、みんな集めて
幸せになよ (16)



③ あるものこうよく使う (8)
(プールのかわりに海とか)



② 子育て支援の充実 (11)



学校 について大事にしたいこと

複合化

- ・一貫教育や交流など大規模な複合施設をつくる
- ・保育園・小学校の複合化
- ・複合化で安全面もプラス
- ・庁舎と統合しまちづくりの中心に
- ・子育て、介護、幼・保、児童クラブ等



安全

- ・高台に施設を集約し、交通も確保
- ・安全に対してお金を使う
- ・安全の確保にお金（建替・解体）と決断（閉鎖・統合）が必要
- ・安全が一番大事で最優先



賢く使う

- ・空き教室の有効活用
- ・有効活用を、NPO法人を立ち上げて市民が行い、市や学校が支援
- ・プールの代わりに海を活用



交流

- ・複合化で交流・絆が深まる
- ・地域の方が集える場
- ・老人と子どもが交流を楽しむ、福祉の勉強
- ・幼・保、学校の交流



利便性

- ・施設へのアクセスも重要
- ・一極集中が喜ばしい人ばかりではない



統廃合の基準

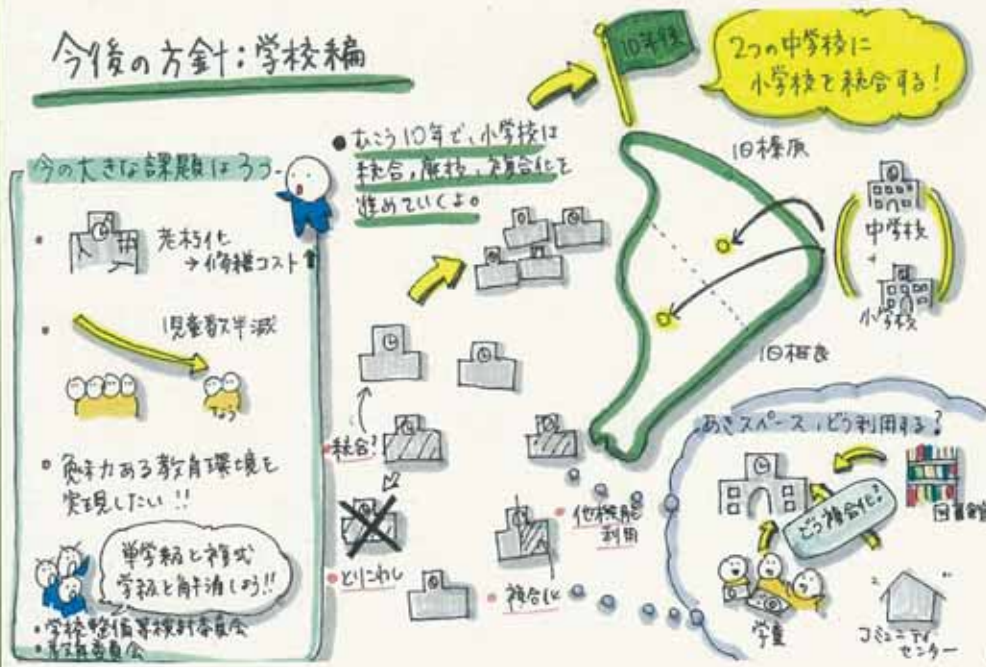
- ・徹底した分析の上で、市としての学校の適正規模を決める
- ・公正な統廃合の基準づくり



学校 の方向性（案）

- ・単学級の解消を図るため、15年後を目途に、中学校区単位で小学校をまとめる。
- ・複式学級となることが見込まれる場合には、周辺校と統合する。
- ・小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現する。
- ・学校の空き施設の活用については、複合利用の拠点とすることを地区と一緒に考える。

今後の方針：学校編





コミュニティ施設 の方向性（案）

- 現小学校区の10地区を単位として、まちづくりの視点で施設を活用する。
- 施設は、市が所管し、地区が運営することを基本とする。
- 施設の老朽化などに対しては、小学校の空き教室の複合利用などを含めた、質の高い、賢い使い方を、地区と一緒に考える。

コミュニティ施設 について大事にしたいこと

現状が わかりにくい

- 検討対象のハコモノがわからない
- 現状がわかりづらい
- 市民が知らない・わからない=興味がない=使用しない
- 現状でコミュニティをつくれる場所は？公園も？
- 今あるものを見る化する

コミュニティ 制度が不統一

- 公民館とコミュニティセンターの区分けが不明
- コミュニティ関連施設の適正化が必要
- 自治区の制度が違う
- 牧之原市といいながら、榛原・相良のルールが続いている
- 榛原・相良の自治会に関する考えを統一する

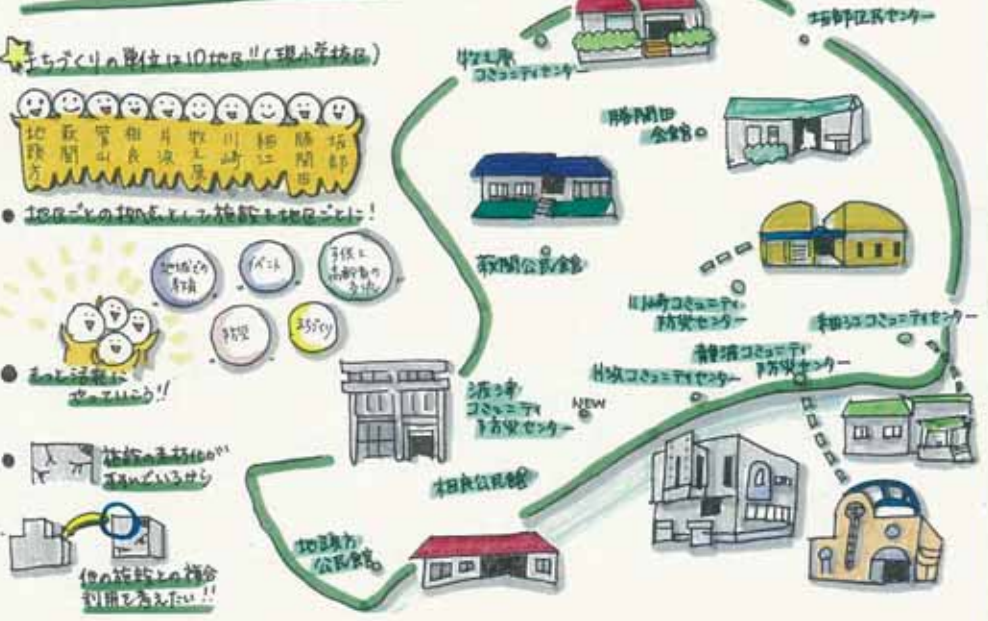
有効活用

- 市の将来像とのマッチングを考慮
- 数より質
- 空き教室を利用してコミュニティセンターなどを入れてみる
- 人（ココロ・スキル）を育てる
- 公園とコミュニティ関連施設を一緒に

楽しく情報発信

- 子どもにもわかりやすい名称に変える
- 利用者の意見を聴く

今後の方針：コミュニティ施設編



保健福祉・観光産業編

① 誘客を目的とした新しい観光のあり方を考える(11)

② 海の公共施設の利用・活用法も検討する(6)



③ インフラ整備(4) (福祉施設の車両活用)

- その他
- ・清潔感(3)
 - ・海周辺の市の計画を調べる
 - ・施設の効率化(1)
 - ・各物開港(スクー-)

観光施設 について大事にしたいこと

魅力ある観光

- ・「また来たくなる」魅力づくり
- ・まったく新しい掘り起こしと可能性の追求
- ・オフシーズンの可能性
- ・今までと違ったイメージ
- ・スマホを活用してPR
- ・シーン別の目標の設定
- ・環境保全も大切に

具体的なメニュー

- ・市の歴史の説明
- ・物語をつくる(塩作り、子生まれ石、体験観光)
- ・パワースポットウォーキング
- ・単体ではなく、つなげる(ツアー)
- ・新しい名物、スイーツ

海岸の利用

- ・砂浜
- ・牧之原にしかない海のポイント(ウミガメ?)
- ・海と山のバランス、景観
- ・海の景色と市の計画、変えられること・変えられないこと
- ・海水浴場、これまでの使い方での利用者UPできるか、もっと広い視野必要
- ・海を中心とした観光
- ・海岸施設の今後

交通アクセス

- ・デイサービスの送迎を観光に利用
- ・観光(市外の人)と福祉(市内の人)を結ぶ交通インフラ
- ・バスの運行状況を確認できるアプリがあるとよい
- ・タクシー配車システム、新デマンド交通
- ・榛原・相良間アクセス(共有ルート)、そこから他へのアクセス方法

施設

- ・使ってみたい・行ってみたいと思う魅力的な施設
- ・オールシーズン使える
- ・清潔(トイレなど)

観光施設 の方向性 (案)

- ・自然、歴史、食、スポーツなどをテーマに、魅力ある着地型観光を進める視点で、施設の配置や活用方法を見直し、観光の魅力を高める。
- ・民間との連携を基本として、賢く使うことを考える。

今年の方針：観光施設編

